

分かる授業の工夫と授業実践 ～基礎学力の定着と考える力の育成～

I 主題設定の理由

ここ数年、数学嫌いや数学離れという現象が見られるなか、数学に対する苦手意識を持っている生徒が増えてきている。特に、文章問題や応用問題になると、その傾向は強く見られるようである。そのような中、毎年のように「分かる授業の創造」に焦点をあてた授業実践が多く場で報告されている。

生徒により興味・関心を持たせるためには、数学が分かる楽しさ・できる楽しさを実感させることが大切である。また、数学教育を授業の中にととめず、より身近な題材を授業に取り入れていくことが、数学の必要性を実感することにつながり、生徒の興味・関心につながっていくのではないかと考える。そこで、本部会では、上記のテーマを設定し研究をしてきた。

教材・教具の開発など指導方法の工夫・改善、評価方法などの研究・実践を行い、上記の主題に迫っていきたいと考える。

II 研究の方法

1 具体的な研究の内容と方法

(1) 統一授業研の授業を通して、基礎学力の定着や考える力の育成を目指した指導方法などを検討する。

ア 統一授業研の授業実践・研究協議を通して、基礎学力の定着や考える力の育成を図る。

イ 小学校との連携を図り、授業実践を9月(中)と2月(小)に見せ合う。

(2) 各学年の単元の導入に関する教材研究と実践発表を行なう。

実践発表を通して、指導上の留意点や指導技術の向上等の研究を深める。

ウ 単元の導入に関する教材の作成を行う。

エ その教材を通して、指導上の留意点や指導方法について話し合う。

(3) 個に応じた指導方法など情報交換を含めて研究を重ねる。

Ⅲ 成果と課題

1 授業実践

- 日時・場所 平成21年9月2日(水) 山梨市立山梨北中学校2年2組
- 授業者 竹内 亮介 教諭
- 題材 2年 1次関数
- 目標
- ・2種類の表とグラフを作成し、それらを比較したり、もとにしたりして1次関数の特徴をみつけだそうとする。
 - ・作業を通して、表やグラフを正しくつくることができる。

*研究討議より

- ・比例と1次関数を比較しながら学習することで、新しい単元に抵抗なく入ることができた。対応表やグラフを作成し、自分の力で共通点や相違点を発見することで、楽しみながら学習をすることができていた。生徒一人に1つの教材を用意したことで、自分の力で問題解決をしようとする意欲的な態度がみられた。机間指導を徹底し、作業が進まない生徒などをきめ細かく指導することができた。
- ・ x と y が何を表しているのかを簡略的に説明してしまい、生徒の理解が曖昧になってしまった。時間の調整がうまくできず、生徒の考える時間を確保することができなかった。もっと関数関係をとらえることのできるような目標を具体的に提示するべきだった。
- ・ x と y などの文字や言葉が何を意味しているのかをしっかりと提示し、正しくわかりやすく理解させる。生徒の興味・関心を引きつけるとともに、その時間の目標をしっかりと達成させるために授業の山場をつくる。また主発問を必ず設定する。

2 各学年の単元の導入に関する教材研究と実践発表について

- ・今年度から始めた研究であるが、1年「正負の数」「平面図形」「資料の活用」、2年「1次関数」3年「因数分解」「相似な図形」「三平方の定理」の7つの導入に関する実践発表が行なわれた。
- ・昨年度までは評価問題の作成と評価問題の実施結果をもとに考察・検討を中心に研究を進めてきたが、今年度からは単元の導入に関する教材研究と実践発表を行なった。各校から多くの実践発表がなされ、非常に有意義な研究会となった。また、学習指導要領の改訂に伴って追加される新しい単元に関する研究や実践発表をしていく必要があると感じる。今年度の研究が「わかる・できる・楽しい・学ぶ意欲」へつながり、本部会のテーマでもある「分かる授業の工夫と授業実践」の達成度を少しでも上げていきたいと考える。

(部長 村田 勝一)